

ふくだゆだ  
福田湯田遺跡

津山市福田

## 古墳時代後期 川で行われた水辺の<sup>さいし</sup>祭祀

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、昨年度から福田湯田遺跡の発掘調査を行っています。本遺跡は津山市の南端部に位置し、調査対象地は、吉井川の支流である皿川の東側にあります。遺跡の東側の丘陵には、高野山根2号墳（残存長37m、6世紀後葉）をはじめ、6～7世紀前半の群集墳（小規模な古墳が密集したさま）である佐良山古墳群の支群が築かれています。

これまでの調査では、南から北に向かって流れる皿川の旧流路（水が流れた痕跡）を確認しました。皿川は、丘陵の間を抜け倭文川と合流し、平地にあたる津山市街地に向かって流れが大きく広がります。その手前に位置する本遺跡付近では、流れを頻繁に変えていた様子が明らかになってきました。調査対象地では、奈良～平安時代（8～12世紀）、古墳時代後期（6世紀後半～7世紀）、それより前の3つの時期の旧流路を確認しました。特に古墳時代後期の旧流路では、川岸や礫州（礫で形成される中州）のおよそ20か所で、土器が発見されました。土器は完形（壊



空からみた福田湯田遺跡（南西から）

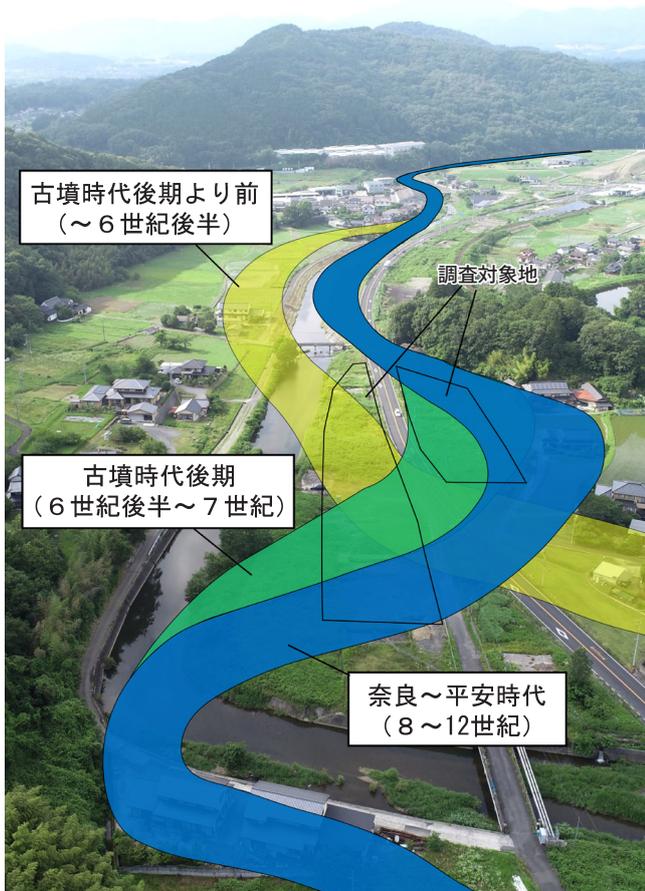
れていない状態)のものや、周囲に散らばる破片から完形に復元できるものが多数を占めていて、流れてきたというより、そこに置かれたものと考えられます。

出土した土器の種類は、須恵器では、貯蔵容器である甕、お酒などを注ぐ<sup>はそう</sup> 甃、土師器では食べ物などを入れる高杯、調理具の甕など様々です。これらの器壁は摩滅した様子がなく、ほとんど使用されていないと判断できます。また、同じ旧流路から鉄器も出土しています。4月からの整理作業で、刀子、鉄鋸、曲刃鎌、摘鎌、小型農工具（祭祀で使用される、形を小さくした模造品）などがあることが分かりました。鉄器の一部は土器の近辺で出土しています。

福田湯田遺跡で出土した土器や鉄器は、その出土状況などから旧流路に廃棄されたものとは考えにくく、水辺で行われた何らかの祭祀に利用された可能性が高いと思われます。土器のなかには、

前述した佐良山古墳群の古墳の築造時期と近いものや、遺跡の近くの窯跡で製作された土器と似た特徴をもつものも含まれます。このことから、本遺跡でみられる水辺の祭祀には、佐良山古墳群を築造した地域集団の関与が窺えます。

皿川を利用した水辺の祭祀に古墳時代の人々はどのような意味を込めていたのか、思いを巡らせつつ、引き続き発掘調査を進めていきます。  
(渡邊 響)



調査成果から想定される流路の変遷



出土した金属器 (約 1/5)



高杯・小型甕の出土状況



甕の出土状況

## 位田遺跡

新見市唐松

## 備中北部の古墳時代後期集落

県道長屋賀陽線改築工事に伴い、新見市唐松に所在する位田遺跡の発掘調査を令和7年4～5月に実施しました。

位田遺跡は新見市南東部にある鬼山山麓の緩やかな傾斜地に位置しています。

調査では、弥生時代から古墳時代にかけての多くの遺物が出土し、弥生時代中期の土坑や古墳時代後期の竪穴住居、掘立柱建物、柱穴列、土坑、鍛冶炉など多くの遺構を確認しました。

竪穴住居は方形で2軒重なっており、同じ場所での建て替えが行われたことが分かります。鍛冶炉は一部熱を受けて赤く焼けており、周囲からは鉄滓や送風機として使われていた鞆の羽口が出土しました。

今回の調査で、古墳時代後期に鍛冶作業を行っていた集落の存在が明らかになりました。調査地の周辺には時期の近い古墳が複数存在することから、古墳の被葬者に関係する集落であった可能性があります。

(西村 奏)



古墳時代後期の竪穴住居（南西から）

## 史跡

## 備中国分尼寺跡

総社市上林ほか

## 備中国分寺・国分尼寺の復元瓦完成！

「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として発掘調査中の備中国分尼寺跡ですが、今までに総重量約3トンの古代瓦が出土しています。これらの瓦は建物の屋根材として葺かれ、寺の衰退と共に廃棄されたものです。

奈良時代の瓦を理解するために、備中国分寺・国分尼寺の瓦をモデルとして1/2サイズで再現し、実際の遺物との比較検討を行っています。

その様子を令和5年度から古代吉備文化財センター公式のYouTubeチャンネルで、「復元！古代瓦」として公開中です。粘土づくりから瓦葺きの工程まで行ってきた当動画ですが、令和7年6月をもちまして全13エピソードが完結しました。

分かりやすい動画を目指し制作しましたので、ぜひご視聴ください。

(竹田千紘)



備中国分寺・国分尼寺出土瓦



備中国分寺・国分尼寺復元瓦



「復元！古代瓦」二次元コード

## さかづ 酒津遺跡

倉敷市酒津

## 縄文より息づく 酒津の人々の暮らし

令和4年12月から開始した高梁川河川整備事業に伴う酒津遺跡の発掘調査は、今年で4年目に突入します。昨年度に引き続き、「笠井堰」南側に位置する中州での調査を行っています。

昨年度までの調査で、酒津遺跡が縄文時代草創期（約1万6千～1万1千年前）まで遡ることが明らかになり、長きにわたってこの場所で人々の暮らしが営まれていたことが分かってきました。4・5月の調査でも石鏃（弓矢の矢じり）や石器を作る際に生じる石の剥片などが多く出土しています。酒津遺跡は縄文時代から江戸時代に至るまで各時期の遺構・遺物が順に堆積している状況が確認できる非常に重要な遺跡です。

年々明らかになる酒津遺跡。岡山県の歴史を塗り替える新たな発見の数々に、調査員一同、期待に胸を膨らませています。新たな調査区ではどんな発見があるのか。今後の成果もお見逃しなく！

（平野友梨）



※白ラベルは遺物の出土位置  
中州の調査風景と笠井堰（南西から）

## そのいどい 園井土井遺跡

笠岡市園井

## 中世の館跡の一部を発掘！

県道園井里庄線地方道路改築に伴い、園井土井遺跡の発掘調査を令和7年4～5月に実施しました。今年度は中世の館跡が見つかった昭和59・60年度の調査地に隣接する場所を発掘しました。

鎌倉～室町時代の遺構としては、調査区の南端で、東西方向に延びる幅2m以上の溝状の遺構が見つかりました。過去の調査では、館跡の東端に当たる堀が知られていましたが、今回の遺構は北端を画する堀の可能性が考えられます。

江戸時代の遺構としては、調査区を南北に貫く長さ25m以上、幅1.5m以上の溝を検出しました。この溝はこぶし大以上の石を非常に多く含む土で埋められており、水田の暗渠と考えられます。溝からは多量の陶磁器類や備前焼、瓦、焙烙などが出土しました。これらは石と一緒に混ぜて捨てられたものと思われる。

5月15・16日（木・金）には、地元の方向けの現地説明会を開催しました。参加者の皆さんには、調査の様子や出土品を間近でご覧いただきました。（四田寛人）



鎌倉～室町時代と考えられる溝状遺構  
（南から、遺構は写真手前）



# 令和7年度 企画展1 「じっくりみよう！<sup>えんとうはにわ</sup>円筒埴輪」

令和7年4月16日（水）から10月13日（月・祝）まで当センター展示室で令和7年度企画展1「じっくりみよう！円筒埴輪」を開催しています。

円筒埴輪は、吉備地域で誕生した弥生時代後期の特<sup>とく</sup>殊器台形土器（以下、特殊器台と略す）をモデルに、古墳時代を通して日本列島の広い範囲で作られました。古墳を取り囲むように大量に並べられ、墓という特別な空間を区画する役割を持っていたのではないかと考えられています。実は埴輪の中で最もたくさん作られたのは円筒埴輪なのです。

埴輪を語る上でなくてはならない円筒埴輪ですが、人物や動物の形を模した埴輪と比べ、形がシンプルであり個性が少ないように見えます。そのため、埴輪をコンセプトにした展示でも主役になる機会はそう多くありません。全国各地で埴輪を主役とした展示が多く行われ、注目を集めている今だからこそ、本企画展では円筒埴輪を中心に据え、ルーツや「じっくりみる」方法からその魅力をお伝えします。

本企画展でイチ押しの展示品は、特殊器台をルーツに円筒埴輪が成立する過程の中で誕生した特殊器台形埴輪（倉敷市矢部古墳群B42号墳出土）です。文様部分<sup>とったい</sup>を突帯（タガ）で区切る、三角形、<sup>どもえ</sup>巴形をした透かし孔をもつといった特徴が特殊器台から引き継がれています。一方で、全体の形はより円筒埴輪に近づいており、特殊器台から円筒埴輪への移り変わりの様子が分かります。

今回展示している特殊器台形埴輪は破片のため、展示台に据えるのが難しいものですが、試行錯誤を重ね、製作当時の姿をよりイメージできるように立てて展示しました。矢部古墳群B42号墳出土特殊器台形埴輪の展示は岡山県内では23年ぶりとなります。

そのほか、岡山県内各地から出土した円筒埴輪を展示し、注目ポイントごとに解説しています。岡山市<sup>まえいけうち</sup>前池内遺跡と赤磐市<sup>どい</sup>土井遺跡出土の円筒埴輪を見てみましょう。よく見てみると、表面にスジが入っています。これはハケメと呼ばれていますが、前池内遺跡出土のものはヨコ方向に、土井遺跡出土のものはタテ方向にハケメが入っています。実はこのハケメの方向をみるだけで、この2つの埴輪のどちらがより古い時期に作られたのかが分かります。

円筒埴輪の表面に残される痕跡は細やかですが、たくさんの情報が詰まっています。ハケメ方向以外にも円筒埴輪を知る手がかりについて解説しています。ぜひこの機会に展示室で実物と照らし合わせながら「じっくりみて」ください。  
(杉浦香菜子)



企画展の様子



特殊器台形埴輪（矢部古墳群B42号墳）



円筒埴輪（岡山県内各地から出土）



## 大地からの便り 2025 ー県内の発掘調査報告会ー

令和7年7月12日（土）に岡山県立博物館において、近年発掘調査が行われた遺跡の調査成果を紹介する報告会を開催しました。暑さ厳しい中、128名の参加がありました。

今回は、当センターが発掘調査を行った酒津遺跡（倉敷市）、史跡備中国分尼寺跡（総社市）に加え、荒木山西塚古墳（真庭市）、<sup>あらかきやまにしづか</sup>藤野遺跡（和気町）について、各報告者から写真や動画などの映像をまじえながら、軽妙なトークで分かりやすく発表いただきました。

参加者からは「現地に行けなかった遺跡や、調査を知らなかった遺跡のことを分かりやすく説明していただき理解が深まった」、「ぜひ現地に行ってみたい」といった感想が寄せられました。

4遺跡とも発掘調査や整理作業の途中ではありますが、今後の調査の進展と成果に期待が膨らむ内容でした。（藤井雄一）



酒津遺跡の報告と会場の様子



荒木山西塚古墳の報告



## チャレンジ！考古学教室（古代吉備文化財センターコース）

今年度から始めた新企画で中学生・高校生対象の体験型イベントです。この古代吉備文化財センターコースは当センターで埋蔵文化財について学び、出土品の整理を体験し、展示室で来館者への展示解説にチャレンジします。今回は考古学・歴史好きの高校生15名に参加いただきました。

初回の6月28日（土）はガイダンスと所内の案内、7月5日（土）は土器洗いと瓦の拓本をとるという業務体験、さらに展示解説の勉強会、そして3回目となる7月26日（土）には、当センター展示室の来館者に対して展示資料の解説にチャレンジしました。各自、前もって展示室の資料から興味のあるものを選んで深掘りし、その魅力が伝わるように工夫を重ねてこの日をむかえました。来館者のみなさんは高校生の熱心な解説に聞き入っていました。もしかしたら、このなかに未来の考古学者や埋蔵文化財発掘調査員がいるかもしれません。（難波拓史）



瓦の拓本をとる



展示解説にチャレンジ！



## 夏休み企画☆ワクワク古代体験！

令和7年7月29日（火）から8月1日（金）まで、人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。恒例の勾玉・鏡づくりのほか、今年度は新たに、県内の遺跡からの出土品を復元した紡錘車（古代の糸を紡ぐ道具）を使った糸づくりの古代体験を行いました。また、展示コーナーでは、伊福定国前遺跡（岡山市）の出土品やパネルを展示、さらに古代の勾玉に使われた石の標本を観察してもらうコーナーも設けました。

古代体験では、当センター職員から勾玉や鏡についての説明を受けた後、津島遺跡ボランティアの皆さんにアドバイスをもらいながら、それぞれの体験に熱心に取り組んでいました。「古代の人がどのような気持ちで、ものづくりをしていたのか考えさせられた」、「古代のことも学びながら、科学の実験や工作でもあって、楽しさがたくさんあった」という感想をいただきました。

今後も夏休みの恒例イベントとして、開催していきたいと考えています。（小林有紀子）



勾玉づくり



鏡づくり



初めての糸紡ぎ体験！



## 吉備の考古学講座 第1回・第2回

「吉備の考古学講座」を県立図書館多目的ホールを会場として計2回開催しました。この講座は、岡山県立図書館と連携して開催し、当センターの職員が埋蔵文化財の調査及び研究などの業務で培った知識や知見をもとに、「吉備の歴史」について発表するものです。

令和7年8月30日（土）に催した第1回は、團奈歩総括副参事が「糸を紡ぐー県内の出土品からわかることー」、柴田英樹次長が「※諸説あります！分銅形土製品」について解説しました。

続いて、第2回は9月20日（土）に開催し、西村奏主事が「吉備の埴輪づくり」、藤井雅大主任が「古墳に眠る鉄の祭祀ー古墳の副葬品からー」を発表しました。

さらに、この講座の開催と併せて、9月3日（水）～28日（日）には県立図書館2階閲覧室にて、講座の内容に関わる出土品を展示しました。講座の理解を深めるとともに、来館者の方々に発掘調査成果を広く公開することができ、たいへん好評いただきました。（米田克彦）



吉備の考古学講座 第1回の様子



県立図書館での展示の様子

## おかやまの 遺跡を掘る

vol.16

— 津寺遺跡 —  
岡山市北区津寺

## 古代吉備の治水技術の革新 — 津寺遺跡にみる大規模護岸施設 —

昭和 63 (1988) 年から平成元 (1989) 年にかけて、山陽自動車道建設に伴い発掘調査を実施した津寺遺跡(岡山市)では、今から 1,400 ~ 1,300 年前に造られた護岸施設、全長 62.4 m、高さ 1.8 m 分が見つかりました。

この施設は足守川の旧流路に沿った低地に築かれたもので、その場所は東西に延びる川幅が細い流路と南北に延びる川幅が

広い流路(旧足守川)が合流する付近にあたります。これらの流路の変遷から、初期には小規模な堰として東西に延びる流路をせき止め、後に南北に延びる流路に対して、低水路護岸(平常時に川の水が流れている部分に設置される護岸)や流路の方向調整を担う役割をもって造られたものと考えられています。

また、護岸は盛り土のみに留まらず、川側の内部にはジオテキスタイル(埋立地などで使用される繊維シート)に相当する草本・樹皮を重ね、盛り土内の水の浸透や排水、滑り防止をしていたことが分かりました。また、裏法面側の内部には、盛り土の沈下の抑制や流出を防ぐことを目的として、数千本もの杭を密に打ち込み、そこに横木を組むなどの工夫も確認できました。

出土遺物や流路の堆積土の状況から、この施設は奈良時代にかけて機能し、治水及び交通の中核インフラとして遺跡周辺の地域の発展に大きく寄与したと推察されます。なお、古代吉備文化財センターでは、この護岸施設の移築復元模型を展示しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。(澤山孝之)



護岸施設の杭列(南から)



護岸施設の土層断面(西から)



## 編集・発行 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3  
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142  
WEB <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

- ◎ 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分  
JR桃太郎線吉備津駅下車徒歩25分
- ◎ 業務時間 AM8:30 ~ PM5:15
- ◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- ◎ 展示室の開館 AM9:00 ~ PM5:00  
土・日・祝日も開館しています。(臨時休館あり)

HP・SNSも随時更新中

Q 古代吉備文化財センター

